



第二種
尋常小學書方手本
第五學年用乙上甲種

K130.721
2.1
5.6乙上b

K130.721

2.1

5.6乙上b

第三種



第五六學年用乙上甲種

尋常小學書

文部省

日出ヅル處ノ天
子書ヲ日没スル

處ノ天子ニ致ス
恙無キカ。

第三尋 乙上甲

神社。佛閣。拜殿。

五重塔。手水鉢。

第三卷 乙上甲
第一卷 乙上甲

人は心も知らずふる里は

花ぞ昔の香にほひける。

五

第拾六乙上甲

第拾六乙上甲

来て見ればこも櫻のみねつき

吉野初瀬の花の中やど。

六

御手紙拜見仕仕来る二十日講話會に
申招き下され有り難く存じ仕専門家の
講話を承る好機會と存じ仕へども

第百六乙上甲

第百六乙上甲

當日はやむを得ざる用事これ有り殘
念ながら参考と致し難く仕若取り
あへず申返事申し上仕敬具

我が聯合艦隊が克ク勝ヲ制シテ前記ノ如キ
奇績ヲ收メ得タルモノハ一ニ天皇陛下ノ御稜
威ノ致ス所ニシテ固ヨリ人爲ノ能クスベキニ
アラズ。殊ニ我が軍ノ損失死傷ノ僅少ナ

第九
第百零六乙上甲

リシハ歴代神靈ノ加護ニ依ルモノト信仰
スルノ外ナク嚮ニ敵ニ對シ勇進敢戦シタル
麾下將卒モ皆此ノ成果ヲ見タルニ及ンテ
唯々感激ノ極言フ所ヲ知ラザルモノノ如シ。

第十

手數都合取扱。

十一

第尋六乙上甲

保存交換輕便。

十二

吹く風をなこそ
の関と思へども
路もせにちる
山櫻かな。

十三

第二尋極乙上甲

年を經し絲のみだれの
苦しさに
衣のたてはほころびにけり。

十四

頭。胸。腹。心。臟。肺。

十五

第一尋 乙上甲

腸。胃。筋。肉。關。節。

十六

動物體色周圍。

十七

第尋乙上甲

保護敬言戒武器。

十八

第尋乙上甲

裾野。樅檜。頂上。

十九

第...
乙上甲

噴火口。銀明水。

二十

燈臺本暗シ。
長者ノ萬燈ヨリモ貧女ノ燈。

三十一

第三卷乙上甲

旅ハ道連世ハ情。
思フ念力岩ヲモ通ス。

三十二

濱邊。沖合。地引網。

參魚。青鯉。魚鱸。魚鱸。鯛。解虫。

いづこの町も村も老若男女ひたすらに
大君を思ひ奉る赤心より祈らぬ神佛も
無く立てぬ願も無し。まして二重橋外の

廣場には土にひれふし砂にぬかづきて夜と
なく晝となく祈り奉るもの幾千といふ
數を知らずゆきしき有様たとへんに物をし。

拜啓老父事本年は八十歳に相成り候に
つき来る九月二日の誕生日に御心安ま方々
と招待いたし心ばかりの祝意を表し

度と存じ候間同日正午までに御出で
下され候はば大幸の至に存じ候先は
所案内まで此の如くに御座候

梁棟榑床敷居。

二十九

德季乙上甲

鴨居唐紙障子。

三十

德季乙上甲

耕地。整。理。養。蠶。養。雞。

第尋六乙上甲

三十一

著。實。熱。心。去。華。就。實。

第尋六乙上甲

三十二

本殿の横手に一段ばかりの平地あり。
こゝは我が村の公園ともいふべく御祭の
日宮角力の行はるゝも此處なり村

芝居のもよほさるゝも此處なり。豊年
の喜に人心の勇又立つ秋の空宮太
鼓のひびきは我等の物をなごらしむ。

01301721-21
-56250

大大大大
正正正正
五五五五
年年年年
五三三三
月月月月
廿廿十十
二五八七



日日日日
印刷發行
印刷發行
印刷發行

大正五年三月廿九日
文部省檢査濟

發賣所

東京市日本橋區新地十六番地會社

第二種尋常小學教科書
手本第五六學年用乙上甲種

定價金參錢

著作權者
兼發行所

日高部
秩父省

印刷發行
兼印刷者

大阪市南區難波菅原町千八百八十八番地ノ九
大阪書籍株式會社
代表者 三木佐助

印刷所

大阪市南區難波菅原町千八百八十八番地ノ九
大阪書籍株式會社

國定教科書共同販賣所

